

がん免疫療法

北大が新拠点

北大は27日、がんの免疫療法に用いる新薬を開発するため、大学院医学研究院に「ワクチン免疫学分野」を創設したと発表した。北大の研究チームは、副作用を抑え、免疫だけを高める効果が期待される物質をすでに開発しており、実用化に向けた研究を進める。

創設は1日付。免疫療法では、免疫の働きを活性化させ、がん細胞を攻撃するように促すのが特徴。北大の瀬谷司、松本美佐子両特

任教授の研究グループは、副作用を最小限に抑え、免疫だけを高める効果がある物質を開発し、2015年に動物実験に成功。その後、この物質を大量に化学合成する方法を確立した。

研究は東京の医薬品会社と連携。19年3月末をめどに、安全性などの部位のがんの効果があるかを動物を使って調べ、新薬開発につなげる考え。

瀬谷特任教授は「がん患者が苦しまず、継続的に治

療を続けられる可能性が広がる。患者の生活の質の向上に貢献したい」と話している。